



PALME D'OR  
FESTIVAL DE CANNES 2003



BEST DIRECTOR  
FESTIVAL DE CANNES 2003

# エレファント

監督・脚本・編集 ガス・ヴァン・サント

『マイ・プライベート・アイダホ』『ドラッグストア・カウボーイ』『グッド・ウィル・ハンティング 旅立ち』

2003年カンヌ国際映画祭で史上初のパルム・ドールと監督賞のW受賞を果たしたガス・ヴァン・サント監督の最高傑作『エレファント』がついに日本公開される。

『マイ・プライベート・アイダホ』、『ドラッグストア・カウボーイ』、『グッド・ウィル・ハンティング 旅立ち』。ヴァン・サント監督は、少年が世界の中で居場所を見つけようとするのがどういふことなのか、彼らと同じ視線に立って探し求めてきた。今は亡きリバー・フェニックスや、キアヌ・リーヴス、ベン・アフレック、マット・デイモンといった若い俳優たちの信頼を集めるガス・ヴァン・サント監督。少年たちをありのままに受け入れ、大人には見えない、無垢なきらめきを、スクリーンに映し出す。

素人の高校生のピュアな感受性を引き出す演出、透明感溢れる詩的な映像表現は、カンヌで大絶賛された。誠実に描かれた、「あの事件」の少年たち。

抱きしめてください。

二度と戻らない、青春の一日を――

撮影：ハリス・サヴィデス『小娘を見つけたら』『ゲーム』 NY批評家協会賞受賞！

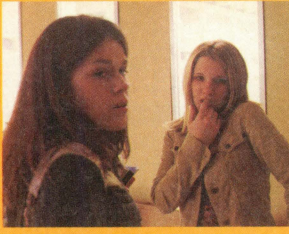
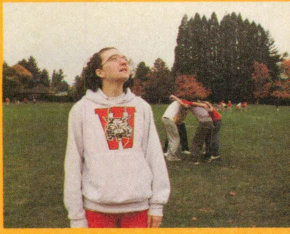
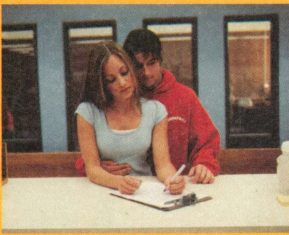
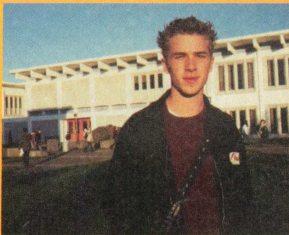
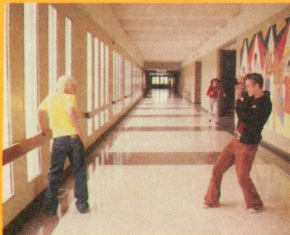
音楽デザイン：レスリー・シャッツ『グッド・ウィル・ハンティング 旅立ち』 挿入曲「エリーゼのために」『月光』ヴェトゥーヴェン

2003年/アメリカ映画/1時間21分/カラー/スタンダード(1.1.33)/SRD

配給：東京テアトル、エレファント・ピクチャー 提供：東京テアトル、エレファント・ピクチャー、テレビ東京

協力：ジェネオン エンタテインメント ©2003 Home Box Office, Inc. All rights reserved.

WWW.elephant-movie.com



トップスタイリストであり  
フォトグラファーでもある、  
熊谷隆志氏がディレクターを務める  
ブランドGDCが『エレファント』と  
夢のコラボレーション!!

GDC×Elephant  
Elephant  
a film by GUS VAN SANT  
This garments made by GDC



『マイ・プライベート・アイダホ』以来、熱狂的なガス・ヴァン・サントのファンである熊谷氏が、映画をイメージした50アイテムを揃えた限定ブランド「GDCエレファントライン」を展開! Tシャツやパーカー、ジャケット、キャップ、アクセサリーなど、史上最強の奇跡的なコラボは、この夏のマスト・アイテムとなるのは間違いない。GDC TOKYOとシネセゾン渋谷にて限定販売。

3月より、代官山GDC TOKYO内に『エレファント』スペースを設置。GDC「エレファントライン」とともに映画『エレファント』の世界観を楽しめる。

割引特典…GDCのレシートをご持参のお客様は、当日入場券を¥1300でご購入頂けます。  
2名様まで有効。「エレファント」上映期間中、シネセゾン渋谷のみ有効。(レシートは原則的に回収させていただきます)

ガス・ヴァン・サント & ジョン・ロビンソン  
IN JAPAN 来日記念写真展



@シネセゾン渋谷

2004年1月20日から24日まで、キャンペーンで来日しました。  
素顔の監督とジョン。

『BARFOUT!』カバー撮影風景  
「あまのふでこと主演 妻木木菜子と」

ABC-MART & agnis b. コラボ決定! (くわしくはHPまで)

## 3.27(土)より感動のロードショー!

特別鑑賞券好評発売中¥1,500(税込) 当日一般¥1,800(税込)のところ

|  |                      |                         |
|--|----------------------|-------------------------|
| シネセゾン 渋谷   | 渋谷道玄坂ザ・プライム6F<br>入替制 | JR川崎駅東口・京浜東北川崎駅中央口      |
| 03-3770-1721 <a href="http://webs.to/sibuya">http://webs.to/sibuya</a> |                      | 川崎チネチッタ<br>044-223-5190 |

11:40 | 13:35 | 15:30 | 17:25 | 19:20

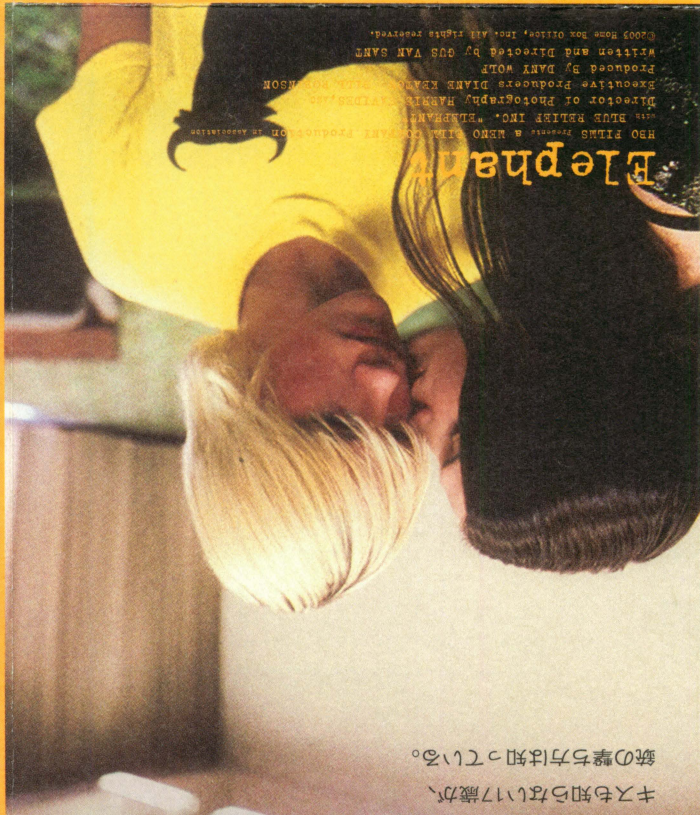
※劇場窓口でお買い求めの方に限り、ジョン・ロビンソンのオリジナルポストカード(2枚組)を限定プレゼント。

GDC×Elephant

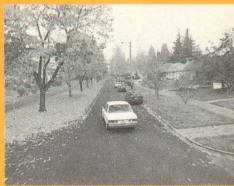
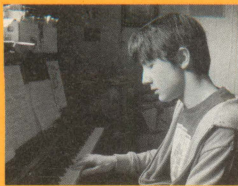
初日プレゼント—GDC Tシャツを抽選で10名様に。(27・28日アンケートにお答え下さい。上記2日のみ)

| 全国<br>順次<br>公開 | 大阪                     | 大塚                           | 神戸                           | 京都                    | 名古屋                    | 福岡                     | 札幌                                 |
|----------------|------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|------------------------------------|
|                | テアトル梅田<br>06-6369-1080 | 心斎橋<br>シネマドゥ<br>06-6251-3789 | 三宮<br>アサヒシネマ<br>078-221-5688 | みなみ会館<br>075-661-3993 | シルバー劇場<br>052-451-0815 | KBCシネマ<br>092-751-4288 | スガイクアアレックス<br>札幌劇場<br>011-221-3802 |

(仙台) 仙台フォーラム (静岡) 静岡シネ・ギャラリー (岡山) シネマ・クレール (広島) サロンシネマ (金沢) シネマント (岐阜) シアターベル (伊勢) 進富座 (北九州) シネプレックス10小倉 (大分) 大分シネマ5 (旭川) ティノシネマ旭川



キヌ知らないうちに  
彼の心は知っていた。



まるで処女作のようなみずみずしさがみなぎっている。  
ただ息をのむしかないほどに若々しい。

**蓮實重彦** (映画評論家) インビテーション3月号より

この映画は、もし今、高校生なら映画の中の会話を  
自分とリンクすることができるだろうし、  
もし大人であるなら自分の高校時代を思い出し、  
そして子を持つ親なら自分の子供を思い出すかもしれない。  
それぞれに持つ個人の感覚に訴えてくる作品だと思えます。

**侍田來未** (ミュージシャン)

小さな頃、この世の美しきものに目を向けると、  
神はいるような気がした。  
あれは祈りということそのものだったんじゃないかと、  
「エレファント」を見て思う。

**赤坂真理** (作家)

薄い光に包まれた、空の下。  
さまよい続ける小さな心の声が、語りかけてくる…  
その声に耳を傾けるのは、今しかないような気がした。

**はな** (モデル)

植物的な視線が、この作品を個人的な体験にし、  
僕は激しくゆさぶられた。

**加瀬 亮** (俳優)

少年たちの心に潜む「何か」、その「何か」がとてつもない怪物へと  
姿を変えて行く過程を、カメラは言葉少なにじっと追う。  
そのまなざしの確かさに驚かされた。

**安藤優子** (ニュース・キャスター)

この映画は愛に満ちあふれている。  
もう一度この映画を観ることがあれば、  
おそらくわたしは涙を流さずに観ることはできないだろう。

**横田 創** (作家)

タイトルの由来は「リビングの象」というアイルランドの諺。  
背中越しのリアルに、その深さが迫る。

**おちまさと** (プロデューサー)

綺麗でゆるいのに飽きることができない映画。  
かってよくて、だから余計に怖くなった。

**山田麻衣子** (女優)

監督の厳しいけれど、やさしい目が好き。  
映画での空が、心にこんなに響いたのは、はじめて。

**桃生亜希子** (女優)



衝撃的なシーンが2ヶ所あり、少年は何を思って殺人を  
実行したのか、が解った気がしました。密度の濃い映画です。

**おすぎ** (映画評論家)

傷ついた心だけに聞こえる音色を、明日の世界は、  
銃弾ではなく美に変えてと祈った。

**桜井亜美** (作家)

カメラはただ、少年たちの背中を追う。  
この距離の遠さと近さに、「エレファント」の絶望は、ある。

**CUT編集長 宮寄広司**

彼(監督)の持つ距離間は、時代がどんなに狂気にまきこまれても、  
紳士的であり救われる。

**MOTOKO** (フォトグラファー)

カメラアングル、スタイリングどれをとっても  
今年最高の映画! 好きです。

**熊谷隆志** (スタイリスト/フォトグラファー/GDCディレクター)

少年の、大人による、青少年の為の映画。  
僕等は唯、見届けられたい。緩めのピントで、しかししっかりと。

**伊賀大介** (スタイリスト)

10代だった頃の心情が何度もフラッシュバックして、  
本当に胸が詰まりました。

**カヒミ・カリイ** (ミュージシャン) SPUR1月号より

当時私もハイスクールに通っていた。  
彼らは私と変わらない男の子たちだった。

**坂本美雨** (ミュージシャン) SPUR1月号より

まるでパズルの様な映画だ。陰と陽を合わせ持つ  
少年の心を見事に描いている。僕は考え込んでしまった。  
なぜならこれは大人達にも言える事だから。

**宮下貴裕** (NUMBER (N)INE デザイナー)

(順不同)

